

古典の写本(9)ムガル朝のペルシア語写本

北インド全域を支配下に置いたムガル朝皇帝アクバル Akbar (1556 - 1605) の治世は、公用語のペルシア語による、空前の修史活動の時代でもあった。そこで編まれた公式の王朝史『アクバル・ナーマ』 *Akbar Nāmah* の最終巻は『アーイーニ・アクバリー』 *Ā'in-i Akbarī* と通称され、今日に伝わる。これは宮廷、軍事の諸制度から課税統計、宗教事情に至るまで、極めて多彩な情報を網羅した第一級の史料である。

次頁の写真は、同書の写本の一部 (British Library, Add. 7652, f.162v. サイズはおよそ33cm × 23cm . 17世紀の書写。ナスフ体), Ilāhābās (今日のイラーハーバード Allahabad) 州の見込収量の評価額の統計表。

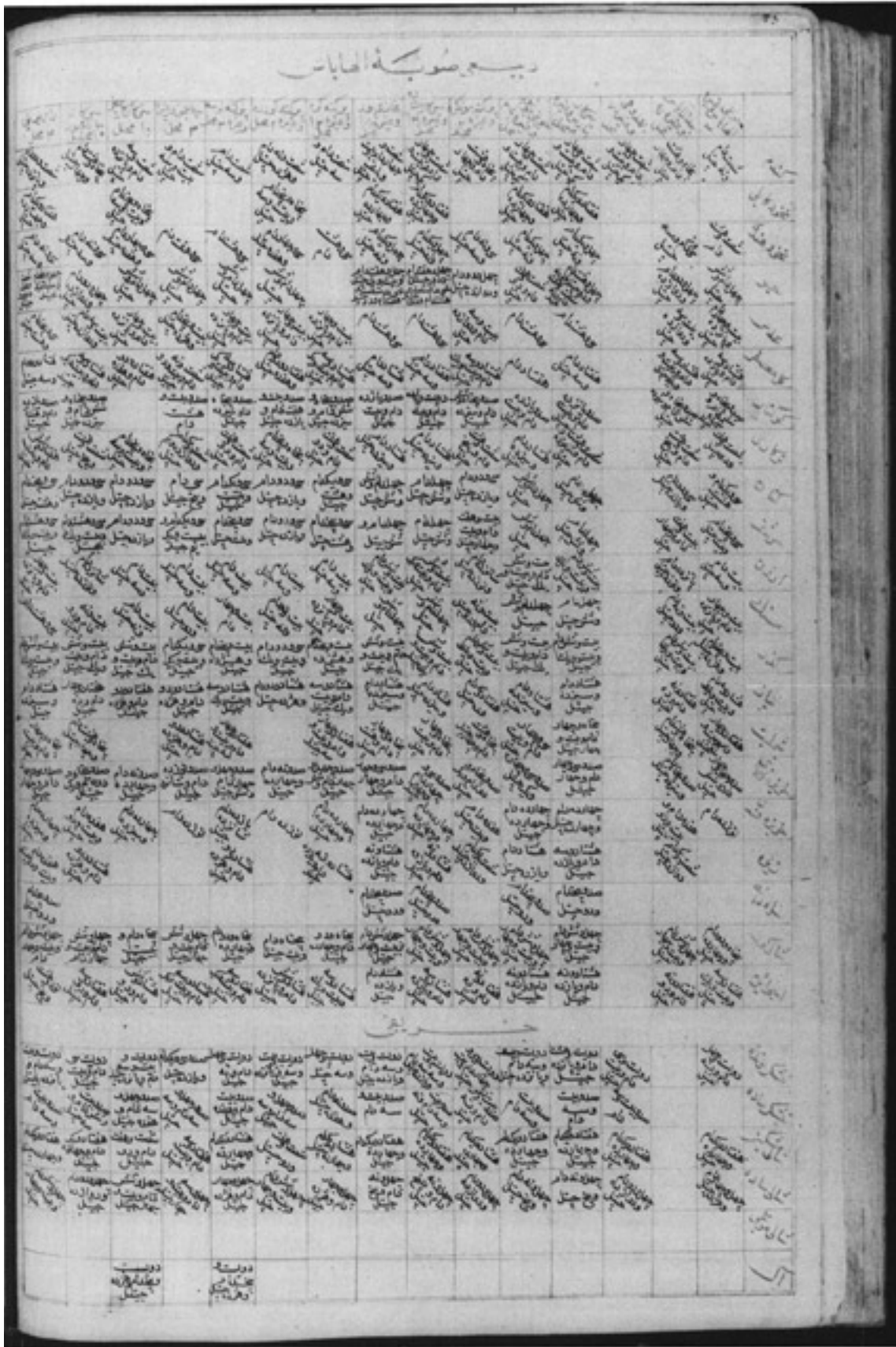
表の第1行は「Ilāhābās 州春作」とあり、第2行に右から各管区の名前、縦右第1列は作物の名前。以上が朱書き、写真ではやや薄く写る。黒字の本文は、したがって、各管区の作物ごとの評価額。例えば本文

第1行第4列は「64ダーム, 21ジータル」とあり、「バナラス県その他, ハカ村」の「小麦」の評価額を示す。ダーム, ジータルは銅貨の名称, 1ダームは40ジータルに相当。単位量あたりの作物の価格は、本書の別の箇所では定められている。第22行目からは同州秋作の統計が始まり、次葉に続く。

写本と比べると、下の活字本が数字と略号を用いて簡略化し、原著の体裁を大幅に変えてしまっていることが分かる。さらに上記バナラス県の数値について、活字本では「64ダーム, 1ジータル」とある。また、第7行第13列の欄、写本は空白だが、活字本には記入がある。わずか一葉の表においてさえ、このような齟齬が他にも多数ある。良写本にもとづく本文確定の作業がなお必要な所以である。

(真下裕之・京都大学人文科学研究所)

The Āin-i-Akbarī by Abul-Fazl-i 'Allāmī, vol.1, p.350.
Bibliotheca Indica (The Asiatic Society of Bengal), Calcutta, 1872.



『アーイーニ・アクバリ』の一葉 (Add.7652, f.162v)
By permission of The British Library.